

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会(第14回) 議事録

日 時: 2020年(令和2年)12月7日(月)13:30~16:30

場 所: 小清水町多目的研修集会施設(愛ホール)内 多目的ホール

議 題:

- (1)2020年度 カムイワッカ部会の議論スケジュール
- (2)普及啓発事業の実施結果について
- (3)2020年度 カムイワッカ地区の利用状況について
- (4)知床オータムバスデイズの実施結果について
- (5)道道知床公園線における工事予定
- (6)カムイワッカ湯の滝 一の滝以奥の再利用について
- (7)2021年度以降の事業方針(案)について
- (8)その他

配布資料:

- | | |
|-------|---|
| 資料1 | 来年度に向けた今年度の議論ポイントとスケジュール |
| 資料2 | 知床ディスタンス!キャンペーンの実施結果について |
| 資料3-1 | 2020年度 カムイワッカ地区来訪者数について(速報) |
| 資料3-2 | 2020年度 硫黄山登山口 道路特例使用申請の集計結果 |
| 資料3-3 | 2020年度 カムイワッカ地区自動車利用適正化対策現地管理連絡調整業務報告書
(概要版) |
| 資料4-1 | 知床オータムバスデイズの事業結果について |
| 資料4-2 | 2020年度 知床国立公園における利用者意識調査結果(速報) |
| 資料5 | 道道公園線の工事予定について |
| 資料6-1 | カムイワッカ湯の滝の再利用に係る検討経緯 |
| 資料6-2 | カムイワッカ湯の滝 一の滝以奥の再利用について |
| 資料7 | 2021年度以降の事業方針(案)について |
| 資料8 | 北海道における自動運転等の取組について |
| 参考資料1 | 2020年度 知床国立公園の利用に関するアンケート調査票 |
| 参考資料2 | カムイワッカ湯の滝 現地調査報告(専門家コメント) |
| 参考資料3 | 2021年度からの祝日の並び順と混雑予測 |
| 参考資料4 | 自動運転技術の活用事例 |
| 参考資料5 | カムイワッカ部会(第13回)議事録 |
| 参考資料6 | カムイワッカ部会設置要綱 |

出席名簿:

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 18名		
知床自然保護協会	代表理事	綾野 雄次
斜里山岳会	会長	遠山 和雄
斜里山岳会	事務局次長	笠井 文考
羅臼山岳会		<欠席>
北見地区バス協会(斜里バス株式会社)	代表取締役社長	下山 誠
北見地区バス協会(斜里バス株式会社)	常務取締役	井南 鉄穂
北見地区ハイヤー協会		<欠席>
NPO 法人知床斜里町観光協会	事務局長	新村 武志
知床温泉旅館協同組合	代表理事	木幡 純一郎
知床温泉旅館協同組合	副理事長	桑島 大介
知床温泉旅館協同組合	事務局	林 典幸
知床民宿協会	会長	松田 賢一
ウトロ自治会	会長	米沢 達三
知床ガイド協議会	幹事	岩山 直
一般財団法人 自然公園財団 知床支部	所長	古坂 博彰
株式会社ユートピア知床	専務	梶原 裕一
公益財団法人 知床財団	理事長	村田 良介
公益財団法人 知床財団	事務局長	高橋 誠司
公益財団法人 知床財団 保護管理部	部長	石名坂 豪
公益財団法人 知床財団 企画総務部 公園事業係	係長	秋葉 圭太
【関係行政機関】 3名		
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課	交通係長	菅原 翔
北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課	上席技術管理専門官	高 浩行
北海道運輸局 北見運輸支局 企画輸送・監査担当	首席運輸企画専門官	久保田 一好
【専門家】 2名		
北海道大学大学院農学研究院	准教授	愛甲 哲也
北海道大学大学院農学研究院		八尋 聡

機 関 名	職 名	氏 名
【事務局】 25名		
斜里町役場 総務部 環境課	課長	南出 康弘
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	河井 謙
斜里町役場 産業部 商工観光課 観光係	係長	岩淵 聖也
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園保護管理企画官	渡邊 雄児
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園利用企画官	湯原 敦子
環境省 ウトロ自然保護官事務所	係員	山田 秋奈
環境省 ウトロ自然保護官事務所	自然保護官補佐	白石 海弥
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	舘 泰紀
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	佐々木 英樹
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	佐々木 英樹
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	小田嶋 聡之
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	早川 悟史
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 維持管理課	主査(道路管理)	土屋 隆裕
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 維持管理課	主査(道路維持)	竹部 公章
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 道路課	主査(道路)	福田 久人
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 事業課	課長	紺屋 昌義
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 事業課	主査(道路第一)	後山 英俊
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 斜里出張所	所長	林 正史
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 斜里出張所	主査(管理調整)	丹羽 哲也
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 斜里出張所	主査(維持)	横井 哲治
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 事業課	専門主任	上山 敏明
北海道 保健環境部	くらし・子育て担当部長	玉川 法之
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課(知床分室)	主幹(知床遺産)	吉澤 一利
北海道 経済部 産業振興局 産業振興課	主査	金子 雅史
北海道 オホーツク総合振興局 産業振興部 商工労働観光課	主事	小原 佑介
【運営補助】 3名		
公益財団法人 知床財団 企画総務部 公園事業係	主任	金川 晃大
公益財団法人 知床財団 企画総務部 公園事業係		吉澤 茉耶
公益財団法人 知床財団 企画総務部 事業支援室	主任	新藤 薫

【開会挨拶】

斜里町（南出）：これより第14回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議カムイワッカ部会（以下、カムイワッカ部会と表記）を開催する。本日の司会進行を務めさせていただく。年末に向けご多忙の折、ご参集賜り感謝申し上げます。本日の会議においては新型コロナウイルス感染症対策として、室内の換気を行った上で出席者にはマスクの着用をお願いしている。発言の際にはマイクの使用をお願いする。当部会は公開会議となっているため、メディアの取材や撮影が行われる。また、議事録は後日公開される点についてご了承願う。本日は、各種モニタリング調査にご協力いただいた北海道大学の愛甲准教授に有識者としてご出席頂いている。また、自動運転に関する情報提供をいただくため、北海道経済部産業局にオブザーバーとして参加頂いている。

【議事】

斜里町（南出）：本日の会議では、今年度のカムイワッカ部会における議論ポイントとスケジュールの確認、夏期から秋期にかけて実施した知床ディスタンスキャンペーンの実施結果、カムイワッカ地区の利用状況、10月に実施した知床オータムバスデイズの実施結果について報告させていただく。また、来年度の道道知床公園線の工事予定、カムイワッカ湯の滝における一の滝以奥の利用再開、知床オータムバスデイズを含む今後の事業の方向性に関する確認を行う予定で進めさせていただく。時間は限られているが、活発なご議論と忌憚なきご意見を願いたい。

斜里町（南出）：早速ではあるが、議事に入らせていただく。今年度の当部会における議論スケジュールについて、事務局の斜里町より説明をお願いする。

（1）2020年度 カムイワッカ部会の議論スケジュール

資料1について斜里町（吉田）が説明

斜里町（南出）：本日の会議では資料1で説明のあったポイントを中心に、議論を進めていくこととする。また、親会議にあたる適正利用・エコツーリズム検討会議より当部会の議論結果について報告を求められていることから、記載の会議スケジュールをもとに検討を進めることとしたい。また、来年3月に開催を予定している第15回カムイワッカ部会において、来年度の具体的な事業内容を最終決定したいと考えている。不明な点などあれば都度お申し付けいただきたい。

斜里町（南出）：質疑がないようであれば、次の議題に移りたい。知床ディスタンスキャンペーンの実施結果について、環境省より説明をお願いする。

（２）普及啓発事業の実施結果について

資料２について環境省（渡邊）が説明

環境省（渡邊）：来年度以降も普及啓発キャンペーンを継続したいと考えている。関係機関のみならずにも引き続き協力をお願いしたい。

斜里町（南出）：議事を進めさせていただく。今年度のカムイワッカ地区の利用状況について、各機関よりご報告をお願いする。

（３）2020年度カムイワッカ地区の利用状況について

資料３－１について環境省（渡邊）が説明

資料３－２について北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部（土屋）が説明

資料３－３について知床財団（秋葉）が説明

斜里町（南出）：カムイワッカ地区の来訪状況や特例使用申請の結果、マイカー規制の実施状況、カムイワッカ地区の現地状況等について報告いただいた。質疑等あればお受けしたい。

知床民宿協会（松田）：9月の4連休に知床五湖で最大2,000mの大規模な入場待ち渋滞が発生したとあるが、最大で何台程度の車両が入場待ちをしていたか、わかる範囲で教えていただきたい。また、8月のマイカー規制期間と同様に、9月の4連休やその他の連休期間においても渋滞距離などの具体的な数値を把握できているか。

知床財団（秋葉）：資料3-3の14ページ目に日別の状況を記録しているので参照いただきたい。2,000mの渋滞が発生したのは連休の中日にあたる9月20日と記憶しているが、シャトルバスの運行がないため、マイカー利用者が五湖に集中する状況が発生した。9月の4連休の期間中は、五湖の駐車場に警備員が配置されており、渋滞の最後尾を担当する警備員から渋滞距離を報告いただくことで渋滞状況を把握した。ただ、台数換算での渋滞情報は持ち合わせていない。

知床民宿協会（松田）：8月のお盆時期と同じく、9月の4連休においても渋滞の発生が懸念されていたはずである。結果として大規模な渋滞が発生し、利用者を長時間待たせてしまっている。このような結果については、どうお考えかお聞かせ願いたい。

斜里町（南出）：8月と同様に9月の連休においても渋滞対策が必要との認識ではあったが、対策を行う体制をとることができなかった。8月以外の連休期間における渋滞対策については、来年度以降も関係機関と協議しながら対策を検討させていただきたい。

知床自然保護協会（綾野）：資料3-3の12ページ目に自由利用期に落石が2件発生したと記載があるが、具体的な日付と原因がお分かりであれば教えていただきたい。

知床財団（秋葉）：こちらについても資料3-3の14ページ目をご参照いただきたい。いずれも日中の利用時間において石が落ちてきたという情報ではなく、関係機関が巡視を行った際に、以前はなかったと思われる石が落ちていたのを確認したという事例である。具体的には、カムイワッカ湯の滝一の滝の規制ライン付近で7月10日から18日の間くらいに落ちたと思われる握りこぶし程度の石が、7月27日に確認された事例である。落石を現認しているわけではないため、詳細は不明である。また、8月25日に発生した事例は、詳細な場所を把握できていないが、台風通過の影響によるものと考えられる。

知床自然保護協会（綾野）：承知した。その場合「落石」ではなく「落石の痕跡」という記載が適切かと思う。

斜里町（南出）：その他質疑がないようであれば議事を進めたい。知床オータムバスデイズの実施結果について、知床財団と北海道大学より資料4-1、4-2の説明をお願いします。

（4）知床オータムバスデイズの実施結果について

資料4-1について知床財団（秋葉）より説明

資料4-2について北海道大学（愛甲）が説明

斜里町（南出）：10月に実施した事業は過去初めての形式であり、短期間の実施ではあったが、これまで課題となっていたヒグマなどの野生動物との軋轢や交通渋滞等の事例は発生せず、これらに伴う危険事例も確実に減少したとの報告であった。また、事業では魅力の向上策として、自然ガイドによるバス車内での解説事業や知床自然センターと道の駅でのイベントを実施しており、これらが利用者の満足度の向上に大きく寄与したと考えている。北海道大学に実施いただいたモニタリング調査の結果にある通り、多くの利用者にシャトルバスを楽しんでいただけたとの印象を受けた。事業の実施結果や評価について、皆様からご意見を伺いたい。

知床民宿協会（松田）：資料4-1の2ページ目について、全て知床で撮られた写真か。大きな台からクマを見ている写真の場所を知床では見たことがない。

知床財団（秋葉）：2 ページ目の写真は今後の利用イメージを含んでおり、全てが知床地域の写真ではない。

知床民宿協会（松田）：私が道の駅から知床五湖へ向かうバスに乗った際には、岩尾別でバス車内からクマを観ることができたため、他の乗客も非常に喜んでいました。例えば、シャトルバスのない時期に車で走っていて助手席の人が野生動物を見つけた時に、運転手はゆっくりと動物を観ることができないが、バスに乗ることで二人が同じ目線で動物を見て楽しむことができ、より多くの感動を得られる。このように、バスに乗ることで知床の魅力をより深く伝えることができるため、今回の事業は非常に良かった。知床財団からあったように、バスでの移動に工夫を加えることによって、知床には面白いバスがあると認知してもらうことができ、観光客を楽しませるような企画が今後も必要だ。ウトロ地域の方々にもこういったイベントに積極的に参加してもらい、観光客とコミュニケーションを図るなどして地域のブランド力を上げていきながら、地域全体でこの事業を良い形にしていけると良い。

斜里町（南出）：実際に事業を体験いただいた中での観光客の反応などについてご報告いただいた。知床斜里町観光協会から意見などあればお聞かせ願いたい。

知床斜里町観光協会（新村）：事業の実施にあたってはこれまで様々な意見があり、当初は地域経済への影響やガイド事業者の利用が減るのではないかとの懸念があったが、今回の事業ではそのような懸念もクリアいただいたと認識している。今回得られた様々なデータを参考に、地域経済や車両規制区間内で事業を行う各事業者プラスの効果が生まれるような施策を考えていきながら、今後も一緒に事業へ取り組んでいきたい。

斜里町（南出）：事業者への影響に関するご意見があったが、バス車内での解説事業にご協力いただいたガイド事業者からも、関連して意見等あればお聞かせ願いたい。

知床ガイド協議会（岩山）：当初は9月の連休期間に事業を行うと聞いていた。コロナ禍で観光入込がかなり落ち込んでる時に事業の話題が上がっていたため、マイカー規制という言葉だけで知床の奥地まで入れない印象を観光客に与えてしまう恐れや、（コロナ禍のため）マイカーで観光ができないために忌避されるのではないかと、との懸念があった。しかし、実際は事業の影響でガイド事業者の仕事がなくなるということはなく、マイカーで奥地へ入れない事による観光客からのクレームなどもなかった。将来を見据えて来年度以降も事業を継続していくのであれば、今以上に多くの要素を考えながら進めていく必要がある。私自身はバスに乗る機会がなかったため、事業に参加された綾野氏から感想をお聞きしたい。

知床自然保護協会（綾野）：事業に対する観光客の反応や評判は非常に良かった。短い準備期間でスタッフの方々にはよく対応されており、満点に近い事業結果だったと思う。会議時間が限られているため、議事を進めていただきたい。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。他にご意見がないようであれば、ここで一度 10 分程度の休憩を挟みたい。

<休憩>

斜里町（南出）：議事を再開する。本日はオブザーバーとして北海道経済部産業振興局にお越しいただいた。10月の知床オータムバスデイズに関心を持っていただき、本日は自動運転に関する情報提供をいただけると聞いている。スケジュールの兼ね合いから次第を変更する形となり恐縮だが、資料8について北海道経済部産業振興局より説明をお願いします。

資料8、参考資料4について北海道経済部産業振興局（金子）が説明

斜里町（南出）：自動運転の取り組みに関する情報提供としてご説明いただいた。今後も継続して情報提供いただけると幸いである。会議時間が限られているため、質疑や確認したい点があれば後日事務局へご連絡いただく形で議事を進めさせていただきたい。続いて道道知床公園線における工事予定について、北海道オホーツク総合振興局建設管理部より説明をお願いします。

（5）道道知床公園線における工事予定

資料5について北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部（後山）が説明

斜里町（南出）：来年度の道道知床公園線の工事予定についてご共有いただいた。来年度の工事予定については、後に予定されているカムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用、来年度の事業方針といった各議題の議論経過と併せ、今後の対応を協議させていただきたいと考えている。ご質疑等ないようであれば、カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用について、北海道オホーツク総合振興局保健環境部と知床斜里町観光協会より資料6-1, 6-2の説明をお願いします。

（6）カムイワッカ湯の滝 一の滝以奥の再利用について

資料6-1について北海道オホーツク総合振興局保健環境部（吉澤）が説明

資料6-2について知床斜里町観光協会（新村）が説明

斜里町（南出）：落石の恐れにより 2006 年から立入禁止となっていた一の滝以奥について、安全対策等を講じた上での利用再開の検討へ向けて、これまでの検討経過や基本的な考え方、今後の方向性について説明いただいた。ご質疑等あればお受けしたい。

知床ガイド協議会（岩山）：知床の観光として、カムイワッカ湯の滝の魅力を今以上に高めていただきたい。旅行会社のパンフレットやポスターなどでよく謳われる「秘境知床」はカムイワッカ湯の滝を指しているはずだ。私が 22、23 年前にガイドを本格的に始めた頃、女満別空港の就航記念で全日空からガイドツアー企画を依頼され、2 年間グリーンシーズンに知床五湖やフレペの滝、カムイワッカ湯の滝を毎日のように 1 日ツアーとして案内したことがあった。その頃はカムイワッカ湯の滝五の滝付近まで案内しており、当時のお客様の楽しむ姿や感動は忘れ難いものがある。カムイワッカ湯の滝にはそれだけの価値や魅力があると感じた。また、2 年間現地を毎日のように何人ものお客様を案内していて、怪我をされた方は一人もいなかった。カムイワッカ湯の滝の利用は沢登りと言われているが、強い酸性の湯により岩盤が削られ、足を掛け登りやすくなっている箇所が多くあるため、沢登りほどの難易度はない。このことを知らずに沢の淵から登ろうとして滑ってしまう方もいるが、湯の中を歩く方が安全ということを伝えてあげることで、怪我なく楽しむことができる場所である。三の滝手前の階段部分は登る人と下る人がバッティングして混雑することがあり、これによって転倒し怪我をした一般の利用者がいたが、通行整理をしてあげればそのような危険も防ぐことができると思う。また、ガイドツアーという形での利用であれば、四の滝より上流へ安全に登っていくことも可能と思う。これらの点を整理・検討いただければ、利用再開を実現することができるのではないかと。

斜里町（南出）：現地利用があった頃の状況を踏まえ、安全対策等含めた利用再開の検討をお願いしたいとのご意見をいただいた。その他ご意見あるか。

知床自然保護協会（綾野）：二の滝以奥については、かつて多くの利用があったにも関わらず事故はなかった。改めて安全確認を行うための実験であれば、提案の内容で全く問題ないと思う。実験ではガイドの責任のもと、同伴によって安全なルートを通ることが想定されているため、有事の際は行政等の管理側が責任を問われることはないはずである。ただ、基本的な考え方の中に「増水や落雷・落石やヒグマといった様々な自然リスク」や「二の滝より上流を立入禁止せざるを得なくなった」との記載があるが、二の滝より下流にもヒグマが出没することあるし、増水時は上流も下流も等しく危険であり増水がなければいずれも危険ではない。つまり、二の滝より上流が特段危険という実態はそもそも無いのではないかと。

斜里町（河井）：二の滝より上流がそれほど危険ではないのではというご指摘に関連して、当事の道道知床公園線沿線の落石調査等においてカムイワッカ湯の滝の上流も落石の恐れがあるのではないかと、という指摘を受けたために規制が設けられた経緯がある。この部会でも 4、5 年前に綾野氏より二の滝より上流を再度利用できないかというご指摘があり、こちらからも何度か関係部局に掛け合ってきたが、5 年ほど前の時点では協議が整わなかった。今回観光協

会からの要望を受け、改めて利用再開について再検討する機会を持つことができ、現在関係行政機関の間で検討を進めている。これまで認識の食い違いがあった可能性はあるが、資料 6-2 にある検討の方向性に全体として異論がないか、先ずはこの場で確認させていただきたい。試行事業の詳細について現段階では決定していないが、当部会で利用再開へ向けた方向性を確認いただけた場合には、ガイド事業者含め各関係団体から意見を伺いつつ、来年度に向けた各論的な検討に進みたいと考えている。今後の検討にあたって参考とさせていただくためにも、違和感のある点などあればこの場で指摘いただきたい。

斜里町（南出）：関連して温泉旅館協同組合や民宿協会などからもご意見等あるか。

知床温泉旅館協同組合（桑島）：カムイワッカは非常に魅力的な場所であり、知床に来られる多くの観光客の目的地となっていることから、利用再開へ向けぜひ検討していただきたいと考えている。

斜里山岳会（遠山）：利用規制の開始前後に監視カメラが現地に設置されたと聞いたが、現在も設置されているか。また、カメラに利用者の映り込みがあったか知りたい。

斜里町（河井）：規制が始まった 2006 年の翌年頃から北見工業大学にご協力いただき、約 6 年間二の滝から四の滝、さらに上流も含めて計 7、8 箇所にカメラを設置し、約 5 ヶ月間の期間 1 時間につき 1 回シャッターを切るインターバル撮影を行った。カメラは立入禁止区域に利用者が入ったかどうかを調べる目的で設置したのではなく、現地の石が動いたか否かを調査する目的で設置した。結果、一定程度は石が動いたとの調査報告があり、安全とは言えないという結論であった。

斜里町（南出）：資料 6-2 の 2 ページ目にある説明の通り、3 年間の検討期間と試行事業イメージに基づいた今後の方向性について、全体確認を行いたい。よろしいか。

一同：了承。

知床財団（高橋）：カムイワッカ現地の魅力向上に向けた取り組み自体には同意するところであり、提案のあった基本的な考え方に基づいて試行が進められていくことに異論はない。ただ、カムイワッカには現地のキャパシティや情報インフラといった課題・制約があることを鑑み、国立公園全体の利用のあり方として考えていかなければならない。そのため、テーマやストーリー性をもって現地の管理水準や利用ルール・情報提供の仕組みなどをデザインすべきであり、北海道から情報提供いただいたような新たな技術の導入を含め、モビリティサービスの提供やアクセスの改善といった MaaS の視点と組み合わせながら、現地利用が検討されていくべきだと考えている。資料 6-2 の基本的な考え方として示されているように、今後は知床オータムバスデイズやアクセスコントロールの取り組みと連携した、現地の魅力向上という視点で検討が進められていくことを望む。

斜里町（南出）：今後の検討にあたってのご意見をいただいた。その他質疑等ないようであれば、資料 6-2 で提案のあった基本的な考え方にに基づき、カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の利用再開へ向けた検討を進めさせていただくこととする。

斜里町（南出）：次の議題に進みたい。2021 年度以降の事業方針案について事務局の斜里町より説明をお願いする。

（7）2021 年度以降の事業方針（案）について

資料 7 について斜里町（吉田）が説明

斜里町（南出）：知床オータムバスデイズの実施結果、道道の工事予定、カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の利用再開と関連して、来年度以降の事業方針案について説明いただいた。今回の新方式での試行事業にあたっては、地域や関係事業者の方々との意見交換をしながら実施させていただいたところであるが、来年度以降の事業方針については現時点で何も決定していない状況である。まずは部会全体の合意をもって今後の事業方針を決定することとした上で、関係団体のみなさまからのご意見やモニタリング調査の結果などを参考に、資料 7 の提案方針に沿って来年度以降の事業全体の検討を進めていきたいと考えている。

知床財団（村田）：先ほど提案されていたカムイワッカ湯の滝の試行事業に関連して確認したい点がある。環境省や林野庁または公園計画におけるカムイワッカ地区の取り扱い、以前から特段変わっていないという前提で今後試行が進められていくとの認識でよいのか。仮に取り扱いが変わったのであれば、今後どのような利用ができるようになっていくか、具体的なイメージが持てる。

環境省（渡邊）：昨年の公園計画改定に伴いカムイワッカ園地の区域を変更している。資料 6-2 でご説明があった通り、カムイワッカには硫黄の採掘跡といった文化的な価値があるとの意見等があったことも踏まえ、一の滝までを公園計画上の園地区域に入れ込んだ。また、同じく硫黄の採掘跡のある湯の滝下流の海岸方面も園地区域に含めたことで、今後整備事業を行うことが可能となるため、将来的にこれら区域の利用がなされるよう推し進めていきたいと考えている。

知床財団（村田）：これまでの議論が湯の滝の利用に特化してるように感じた。川に温泉が流れているところに魅力や秘境感があることは理解できるが、環境省からあったように湯の滝に留まらずカムイワッカ全体を対象に幅広い利用の可能性を考えていく必要がある。提案のあった試行的な取り組みの中には、このような要素や視点を取り込んでいくべきである。また、この試行は土地所有者である林野庁や道路管理者である北海道を含めた事務局全体からの提案だと受け止めている。そのため各管理関係機関には、地元の希望を含めた幅広い利用の可

能性を見据えながら、柔軟な発想を持って検討を進めていただきたい。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げます。カムイワッカ全体の魅力を高めるような視点を持ち検討を進め、地域の方々との意見交換やコミュニケーションを図りながら柔軟に対応していきたいと考えている。

知床温泉旅館協同組合（桑島）：今回の新方式の事業でのシャトルバスの取り組みは非常に良かった。将来的に知床ならではのプレミアム感が出てくるよう発展させていけるとよい。資料 7 に「事業の継続にあたっては外部資金の獲得を努力する」と記載があるが、獲得できなかった場合はどうなるのか。また、今後も利用者負担を無料にするとすれば、事業を継続的に行うことが厳しくなるかと思う。現時点で有料化を検討されているかお聞かせ願いたい。

斜里町（南出）：現時点では、公的負担・民間負担・利用者負担を事業の主な財源として考えているところである。今回は斜里町からの負担金と環境省の補助金を用いて事業を実施した。現時点で来年度の事業予算として使える外部資金は確定していないが、引き続き斜里町からの負担金と環境省の補助金の獲得を検討している。ただ、仮に今回と同じ枠組みで環境省の補助金を獲得できたとしても、補助額は大きく下がると見込んでいる。また、利用者負担に関しては有料化も含め検討しているが、モニタリング調査の結果にあったように無料であった点が利用者に評価されていたこともあり、有料化した場合はどのような利用者評価に転じるか見通せない。来年度以降の事業方針について承認いただけた場合は、新方式での試行事業を 3 年間継続していく中で、利用者負担のあり方について改めて検討していきたいと考えている。

知床財団（秋葉）：補足させていただく。利用者負担の考え方については非常に重要な部分である。事業の中で利用者に提供したいものはサービスであり、サービスであれば当然対価が発生する。逆説的に言えば、将来的には利用者から相応の対価をいただけるようなサービスにしていく必要があり、これは事業の中期的な目標の一つになると考えている。今回の事業結果を振り返ると、利用者から対価をいただけるようなサービスまで到達できていない、というのが実施者の立場からの評価である。また、事業負担ではなく投資として地域の方々にご協力いただけるような事業に発展させるためには 3 年程度を要す見通しであり、その間は外部資金の獲得努力が必要になってくる。もし仮に、財源の目処が付いてから事業の実施可否を決めることとなった場合は、事業スケジュール的に間に合わない。そのため、まずは事業継続の方向性についての合意をこの場で決めたいと考えている。

知床民宿協会（松田）：岩尾別のカーブ道路から下った先にかけては、ヒグマを撮影するためにカメラを構えながら待機している利用者がおり、これに関連して他の通行車両が路肩に落ちてしまうといった問題が起きているようだ。かつては国立公園や世界遺産地域の中には人工建造物を新たに設置できないと聞いていたが、自然を壊さない形でこれらの問題を解決していく必要がある。資料 4-1 の 2 ページ目にあるように、野生動物の写真を撮るために知床へ来

られた利用者が安全に楽しめる場をどのように提供していくか、検討していくべきである。今後カムイワッカ湯の滝やシャトルバスの取組みを進めていく中で、このような視点が欠けてはならないと感じたため、改めて意見させていただいた。

斜里町（南出）：今年度の新方式での取組みにおいては、バス車内からヒグマなどの野生動物を観察できるような形で実施したところではあるが、今回の実施形態が最適だったとは考えていない。そのため、ヒグマを含む野生動物との関係性などについても地域の方々からご意見いただきながら、具体的な今後の取組み内容を検討していきたい。ただ、当面は今回のようにバス車内からの野生動物観察を基盤としつつ、どういった魅力を付加していけるかを検討していく必要がある。

斜里町（南出）：来年度以降も3年間は試行を継続するといった方針について、バスの運行に関連して、斜里バスからも意見等あれば伺いたい。

斜里バス（下山）：利用者負担の有無が明確となっていないため、現時点では何とも申し上げられない。

斜里町（南出）：現時点で来年度の具体的な事業内容は決まっていなかったが、まずは来年度以降の新方式の事業継続と3年間試行を継続する方向性について確認をさせていただきたい。

斜里警察署（菅原）：産業や観光業の発展は地域にとって大変重要だとは思いますが、弊害となり得る交通渋滞や駐車場利用の問題、交通量の増加に伴う交通事故の発生といった懸念についても、引き続きこの部会で議論を深めていただきたい。

斜里町（南出）：斜里警察署からご意見いただいたように、今後も継続して事業を実施することとなった場合においても、交通事故や渋滞対策等を含めて考えていくこととしたい。今回モニタリング調査にご協力いただいた北海道大学からも、今後の方針についてご助言やご意見等いただけるか。

北海道大学（愛甲）：利用者負担の話が出ていたが、今回の調査で回収したアンケートには自由回答として利用者意見が多く寄せられていた。回答者のうち約半数の方が自由回答欄に様々なご意見を書き込んで下さっており、別紙をつけてご意見を送って下さった方もいらっしゃった。利用者負担に関しては、自由回答の中で「無料で良かった」と「有料にしてもよい」といった両方の意見が寄せられたが、今回のアンケートでは設問項目として設けていなかったため、両意見を量的に評価することはできない。来年度以降も継続して新方式の事業を進めていく場合には、こういった利用者意見も一つのポイントとなると考えており、今後調べていければと思っている。また、先ほど提案のあった湯の滝の試行事業に伴い、カムイワッカ地区を含む全体のアクセス状況に変化が生じることが予想されるため、9月の連休中に私たちが調査で取得したカムイワッカの交通量や渋滞状況といったデータを、今後参考に使っていた

だけると幸いである。後日これらの解析結果を提供したい。

斜里町（南出）：ご助言感謝申し上げます。今後新方式の事業を進めるにあたっては利用者負担が一つのポイントになるという点、全体的なアクセスを含めた検討の必要性についてご意見いただいた。また、今後ご提供いただくカムイワッカの交通量調査の解析結果なども踏まえながら、検討していくこととしたい。改めて、来年度以降の事業方針について全体確認を行わせていただく。資料7で説明のあった方針に沿って今後進めさせていただくということによるでしょうか。

一同：了承。

斜里町（南出）：以上で本日の議題は全て終了とさせていただくが、全体を通してご意見等あるか。

（8）その他

ウトロ自治会（米沢）：現在、地域の代表としてウトロ自治会が部会の構成団体となっているが、歴代のウトロ自治会長や地域の有識者が所属しているウトロ地域協議会という団体がある。私は今年の4月にウトロ自治会長に就任したため、部会のこれまでの協議経過を把握できておらず非常に困惑した。今後、ウトロ地域として協議の経過を継続的に把握していく必要があるため、部会構成団体としてウトロ地域協議会を加えていただきたい。

斜里町（南出）：ウトロ自治会より、ウトロ地域協議会を部会構成団体として追加してほしいとのご要望をいただいた。参考資料6の部会設置要綱には「部会での合意を得て設置要綱を改正することができる」条文が記載されている。これに則り、次回の部会からウトロ地域協議会を構成団体に加えることについて、全体確認をとりたい。

一同：了承。

斜里町（南出）：この場での了承を踏まえ、次回の部会よりウトロ地域協議会を構成団体に加えさせていただきます。その他全体を通してご意見等あるか。

斜里町（南出）：定刻となったため、議事を終了させていただく。長時間にわたる協議に改めて感謝申し上げます。次回の第15回カムイワッカ部会は3月を目途に開催を予定している。年度末でお忙しい時期での開催となるがご参集のほどお願い申し上げます。

以上